

第3学年*組 美術科学習指導案

指導者 宮戸 英子

1 題材 心の扉を開けると…

2 目標

- 自己を見つめ感じ取ったこと、考えしたことなどを表現することに関心をもち、主体的に考え、表現しようとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- 自己を見つめて主題を発想し、多面的な視点で組合せなどを考え、表現の構想を練ることができる。
(発想や構想の能力)
- 表現のイメージに合った形や色、材料で創造的によりよく表現することができる。
(創造的な技能)
- 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、20世紀を代表する芸術運動の一つであるシュルレアリスムの手法を取り入れ、自己の内面世界を立体で表現するものである。シュルレアリスムは絵画表現が主流であるが、本題材では、扱いやすい粘土での立体表現とし、いろいろな形を試したり、異なる材料との組合せを考えたりすることで、生徒の発想や構想の能力を育てるに有効であると考える。

(2) 生徒の実態

本校第3学年の生徒は、制作に取り組む姿勢が真面目で、作品の完成度も高い。しかし、アイデアを出したり、発想や構想をしたりすることを苦手とする生徒が多く見受けられる。そこで、造形活動に対してどのような意識をもっているかを知るとともに、今後の指導の方向性を探るためにアンケートを行った。

美術に関する意識調査	(第3学年 131人 平成*. *. *実施)		
○ 美術の授業で最も好きなことはなんですか。	23人	・友達の作品をみること	20人
・アイデアを考えること	27人	・作品をみて、意見を述べること	2人
・絵を描くこと	50人	・特になし	6人
・ものをつくる（立体）こと	3人		
・その他			
○ 作品のアイデアを出すことは簡単ですか。	8人	・どちらかというと簡単	44人
・簡単	66人	・苦手	13人
・どちらかというと苦手			

上記の結果から、生徒はもの（立体）をつくることが最も好きなことが分かる。しかし、作品のアイデアを考えるという点においては、苦手意識をもっている生徒が6割程度いることが分かった。このことから、本題材において、作品のアイデアを考える際の指導を工夫する必要があると考える。

(3) 指導観

生徒の実態を踏まえ、本題材では、まず、シュルレアリスムの代表的な作家である、サルバドール・ダリとルネ・マグリットの作品を鑑賞する。作品のもつ不思議な魅力と楽しさを味わわせるとともに、どのような手法を用いて不思議な魅力を生み出すことができたのかについて理解させることで、制作への意欲を喚起したいと考える。次に、発想・構想の段階のトレーニングとして、ステファン・グロスマン考案の逆設定法やウィリアム・ゴードン考案のシネクティクスの手法を取り上げ、作品のアイデアスケッチを行う。どちらも、ありえない組合せや発想を促す手法であり、このような発想トレーニングを導入することで、対象を多角的に見る力や新しく柔軟な発想力などを培うことができると考える。

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・自己を見つめ感じ取ったこと、考えたことなどを表現することに関心をもち、主体的に考え、表現しようとしている。	・自己を見つめて主題を発想し、多面的な視点で組合せなどを考え、表現の構想を練っている。	・表現のイメージに合った形や色、材料で創造的によりよく表現している。	・作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。

5 指導計画（7時間扱い）

次 時	学習活動	観点別評価			
		関	発	技	鑑
1 1	・シュルレアリスムについて知ろう ・異なるものを組み合わせて不思議な世界をつくろう（発想トレーニング）	◎			○
2 ② 3	・アイデアスケッチをしよう① ・相互鑑賞会を開こう ・アイデアスケッチをしよう②		◎		
3 4 5 6	・心の奥に住むものを制作しよう	○		◎	
4 7	・友達の作品を鑑賞しよう				◎

6 本時の学習

(1) 目標

自己を見つめて主題を発想し、多面的な新しい視点で組合せなどを考え、表現の構想を練ることができる。

(2) 準備・資料

教科書、資料集、ワークシート

(3) 展開

◇A以上に高める手立て ◆Bに高める手立て ◎学び合い

活動内容	指導上の留意点及び評価
1 本時の学習課題をつかむ。	・前時に学習したシュルレアリスムについて触れ、本時の学習のイメージをもてるようにする。 自分の心の奥底に住んでいるもののアイデアスケッチをしよう
2 自分の心の奥底に住んでいるものを考えながらアイデアスケッチを行う。 ・発想法の選択① 逆設定法 ・発想法の選択② マッピング ・発想法の選択③ 線で描く	・活動のはじめに、自分の心としっかり向き合えるような雰囲気をつくり、表現の主題を決めて行けるように支援する。 ・机間指導を行い、ワークシートを活用しながらアイデアスケッチができるように、個別に対応する。 ◆アイデアが思い付かない生徒には、既習の逆設定法や、マッピング、余白に線で描いてみるなど、様々な方法を試すよう助言する。 ・表現のアイデアをすぐに思い付いた生徒は、発想法を活用せずにアイデアスケッチを行ってもよいことを伝える。

	<p>◇発想法に頼らなくてもすぐにアイデアが思い付いた生徒には、どのような思いから表現のアイデアが生まれたのか、作品のもつ意味などを考えるよう促すとともに、使う材料について考えるよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の参考となるアイデアをいくつか抽出し、全体に紹介することで、発想や構想のヒントとなるようにする。 <p>◎友達の作品を鑑賞し、発想のよさや新しい考え方を知ったり、お互いによい方法をアドバイスし合ったりする。</p> <p>◎自己を見つめて主題を発想し、多面的な視点で組合せなどを考え、表現の構想を練っている。 (観察・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデasketchがはかどらない生徒を見取り、対話をしながら、表現のアイデアが思い付くように支援する。 ・本時の活動を振り返り、立体制作に入る際にどのような材料や道具が必要か、手順なども考えるよう説明し、今後の活動の見通しをもたせるとともに制作意欲を高めたい。
3 少人数グループになり、アイデasketchの中間発表をする。 〈発表内容〉 <ul style="list-style-type: none">・アイデasketchの説明・作品で表現したいこと・使用する材料 等	
4 中間発表で学んだことを生かし、アイデasketchを行う。	
5 本時のまとめをし、次時の学習内容を知る。	